

# 2023 年 日本 LCH 研究会学術集会・第 31 回 EBV 感染症研究会 プログラム

日時：2023 年 3 月 19 日（日） 9:30～16:25

## ◆ LCH 開会あいさつ 9:30～9:35

森本 哲（昭和伊南総合病院 小児科）

## ◆ セクション 1 「事務局報告」 9:35～10:05

座長：工藤寿子（藤田医科大学 小児科）

JLSG-96/02 登録例の長期フォローアップ経過

（滋賀医科大学 小児科 坂本謙一）

日本で行われている組織球症関連臨床研究の紹介

（国立成育医療研究センター 小児がんセンター 塩田曜子）

全国 LCH 患者会：希少疾患の患者さんに光を

（全国 LCH 患者会 依田直子）

## ◆ セクション 2 「一般演題」 10:05～11:25

座長：工藤 耕（弘前大学 小児科）

1. BRAF V600E 陽性のランゲルハンス細胞組織球症にエルドハイム・チェスター病を合併し冠動脈主幹部狭窄をきたした一例

月橋亜矢子（東京大学医学部附属病院 循環器内科）ほか

2. 急性リンパ性白血病（ALL）に続発した組織球肉腫で *NRAS* 変異を認めた一例

藤田純美子（東京大学医科学研究所附属病院 血液腫瘍内科）ほか

3. 成人ランゲルハンス細胞組織球症の化学療法

佐藤亜紀（東京大学医科学研究所附属病院・血液腫瘍内科）ほか

4. ビンクリスチンによる早期維持相の強化は小児多発骨型・多臓器型 LCH の予後を改善しない：LCH-12 臨床試験の結果から

森本 哲（自治医科大学 小児科）ほか

5. 診断時の一般血液検査による小児多臓器型 LCH の予後予測：JLSG-02 と LCH-12 の結果から

森本 哲（昭和伊南総合病院 小児科）ほか

## ◆ セクション 3 「ミニレクチャー」 11:25～11:50

座長：今村俊彦（京都府立医科大学 小児科）

「組織球症に対する分子標的治療の現状と課題」

坂本謙一（滋賀医科大学 小児科）

(特別講演リンクより再入室をお願いします)

◆ 第 31 回 EBV 感染症研究会 開会の挨拶 12:30~12:35

大賀正一 (九州大学小児科)

◆ 特別講演 (武田薬品工業(株) 共催) 12:35~13:35

座長: 和田泰三 (金沢大学 小児科)

東北大学災害科学国際研究所・災害医学研究部門・災害感染症学

医学系研究科・大学病院 (感染対策委員長)・東北メディカル・メガバンク機構

児玉 栄一先生

「免疫不全と創薬研究」

(一般演題リンクより再入室をお願いします)

**13:40-14:40 一般演題 1: 基礎・病態** 座長: 今留 謙一 (国立成育医療研究センター高度先進医療研究室)

1. EB ウイルスゲノムの東アジア地域間の多様性に関する系統解析  
北村 大志 (東北医科薬科大学医学部 微生物学)
2. 慢性活動性 EB ウイルス病の EBV 由来 microRNA 発現プロファイル解析  
吉森 真由美 (東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 先端血液検査学)
3. CAEBV に対する細胞表面抗原を標的とした治療法の開発  
吉里 倫 (九州大学 医学研究院 成長発達医学)
4. チロシンキナーゼ阻害剤ダサチニブは Epstein-Barr ウイルス感染胃上皮細胞を障害する  
Yuxin Liu (劉 雨新) (島根大学 学術研究院 医学・看護学系 微生物学)
5. 慢性活動性 EB ウイルス病に対する BCL2 阻害剤の効果の検討  
竹ノ内 里早 (聖マリアンナ医科大学 内科学 (血液・腫瘍内科))

**14:40-15:40 一般演題 2: 症例** 座長 笹原 洋二 (東北大学小児科)

6. EB ウイルス再活性化を伴った重症潰瘍性大腸炎の女兒例  
宇佐美 雅章 (金沢大学 小児科)
7. 早期再燃した難治性 EBV 関連血球貪食性リンパ組織球症 (EBV-HLH) の一例  
福井 晨介 (旭川医科大学 小児科)
8. EB ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症における稀な合併症  
木下恵志郎 (九州大学 小児科)

9. NK 細胞の増殖を伴う皮膚型慢性活動性 EB ウイルス病の男児例

川場 大輔 (鳥取大学 小児科)

10. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した

成人発症慢性活動性 EB ウイルス病

鈴木 黎 (聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科)

**15:40-16:20 パネル ディスカッション CAEBV の診断基準と重症度分類について**

司会 大賀 正一 (九州大学 小児科)

パネリスト

新井 文子 (聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科)

今留 謙一 (国立成育医療研究センター 高度感染症診断部)

川田 潤一 (名古屋大学 小児科)

石村 匡崇 (九州大学 小児科)

**16:20-16:25 閉会の挨拶** : 大賀正一 (九州大学小児科)

## 免疫不全と創薬研究

座長:金沢大学医薬保健研究域医学系 小児科 教授 和田 泰三

演者:東北大学災害科学国際研究所 災害感染症学分野 教授 児玉 栄一

我々の研究室では、抗ウイルス剤の開発研究を行ってきています。BSL3/P3 施設を有していることもあり、これまでヘルペスウイルス、HIV、B・C 型肝炎ウイルス、アデノウイルス、インフルエンザウイルスなどの薬剤開発を行っています。最近ではその知見を新型コロナウイルス、また細菌感染症や抗がん剤の開発にも応用しています。

これまでに日本たばこ産業株式会社と共同で Stribild® (エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビルジソプロキシルフマル酸塩配合錠)の主成分のひとつである HIV インテグラーゼを阻害する elvitegravir を開発しました。上記錠剤は 1 日 1 錠 1 回服用でこれまで複数錠を 1 日 2 回もしくは3回服用しなければならなかった HIV 感染症の治療を大きく改善させました。この elvitegravir は平成 28 年 7 月 8 日から Genvoya®配合剤(エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩配合錠)としても使われています。

HIV 逆転写酵素の translocation を阻害する新たな機序を有する 4'-ethynyl-2'-fluoro-2'-deoxyadenosine (EFdA) をヤマサ醤油株式会社とともに開発し、米国メルク社で臨床開発が進められております。

ヘルペスウイルスの関連で EBV によって引き起こされる慢性活動性 EBV 感染症(CAEBV)に効果を示す核酸誘導体 S-FMAU を見出し、現在、東京医科歯科大学、成育医療研究センター、聖マリアンナ医科大学と共同研究で、アカデミア主導の前臨床試験が終了し、医師主導治験を目指しています。

本講演では、免疫不全について概略を述べたあと、抗ウイルス剤の開発について HIV 感染症と CAEBV を例にして話したいと思います。